目黒の寺

岡本綺堂

住み馴れた麻町を去つて、目黒に移住してから足かけ六年になる。そのあひだに「目黒町誌」をたよりにして、區内の舊蹟や名所などを尋ね廻つてゐるが、目黒もなか〳〵廣い。殊に新市域に編入されてからは、碑衾町をも包含することになつたので、私のやうな出不精の者には容易に廻り切れない。

ほか土地は兎もあれ、せめて自分の居住する區内の地理だけでも一通りは心得て置くべきであると思ひながら、いまだに果し得ないのは甚だお恥かしい次第である。その罪ほろぼしと云ふわけでもないが、目黒の寺々について少しばかり思ひ附いたことを書いてみる。

◇

目黒には有名な寺が多い。先づ第一には目黒不動として知られてゐる下目黒の瀧泉寺、祐天上人開山として知られてゐる中目黒の祐天寺、政岡の墓の所在地として知られてゐる上目黒の正覺寺などを始めとして、大小十六の寺院がある。私はまだその半分ぐらゐしか尋ねてゐないので、詳しいことを語るわけには行かないが、いづれも由緒の古い寺々で、舊市内の寺院とはおのづから其の趣を異にし、雑踏を嫌ふ私たちには好い散歩區域である。唯、どこの寺でも鐘を撞かないのがさびしい。

目黒には寺々あれど鐘鳴らず鐘は鳴らねど秋の日暮るる

◇

前にいつた瀧泉寺門前の料理屋角伊勢の庭内に、例の權八小紫の比翼塚が殘つてゐることは、江戸以來あまりにも有名である。近頃はこゝに花柳界も新しく開けたので、比翼塚に線香を供へる者がます〳〵多くなつたらしい。さびしい目黒村の古塚の下に、久しく眠つてゐた戀人等の魂も、このごろの新市内の繁昌には少しく驚かされてゐるかも知れない。

正覺寺にある政岡の墓地には、比翼塚ほどの參詣人を見ないやうであるが、近年その寺内に彌縫姿の大きい銅像が建立されて、人の注意を惹くやうになつた。云ふまでもなく、政岡といふのは芝居の假名で、本人は三澤初子である。初子の墓は仙臺にもあるが、こゝが本當の墳墓であるといふ。いづれにしても、小紫といひ、政岡といひ、芝居で有名の女たちの墓地が、さのみ遠からざる所に列んでゐるのも、私にはなつかしく思はれた。

草青み目黒は政岡小むらさき芝居の女のおくつき所

◇

寺を語れば、行人坂の大圓寺をも語らなければならない。行人坂は下目黒にあつて、寛永の頃、こゝに湯殿山行人派の寺が開かれた爲に、坂の名が行人と呼ぶことになつたといふ。そんな考證はしばらく措いて、目黒行人坂の名が江戸人にあまねく知られるやうになつたのは、明和年間の大火、いはゆる行人坂の火事以來である。

行人坂の大圓寺に、通稱長五郎坊主といふ悪僧があつた。彼は放蕩破戒のために、住職や檀家に憎まれたのを恨んで、明和九年二月廿八日の正午頃、わが住む寺に放火した。折から西南の風が強かつたので、その火は白金、麻布方面から江戸へ燃えひろがり、下町全部と丸の内を焼いた。江戸開府以來の大火は、明暦の振袖火事と明和の行人坂火事で、相撲でいへば兩横綱の格であるから、行人坂の名が江戸人の頭腦に深く刻み込まれたのも無理はなかつた。

さういふ歴史も現代の東京人に忘れられて、坂の名のみが昔ながらに殘つてゐる。

かぐつちは目黒の寺に祟りして長五郎坊主江戸を焼きけり

◇

瀧泉寺には比翼塚以外に有名の墓があるが、これは比較的に知られてゐない。遊女の艶話は一般に喧傳され易く、學者の功績は兎かく忘却され易いのも、世の習であらう。それはいはゆる甘藷先生の青木昆陽の墓である。尤も境内の丘上と丘下に二つの碑が建てられてゐて、その一は明治三十五年中に、芝、麻布、赤坂三區内の懐芋商等が建立したもの、他は明治四十四年中に、郷下の名士、學者、甘藷商等によつて建立されたものである。

かういふわけで、甘藷先生が薩摩芋移植の功勞者であることは、學者や一部の人々のあひだには長く記憶されてゐるが、一般の人はなんにも知らず、不動參詣の女たちも全く無頓着で通り過ぎてしまふのは、殘念であると云はなければなるまい。

芋食ひの美少女ら知るや如何に目黒に甘藷先生の墓

× × ×

短歌研究１９３８〔昭和１３〕年１１月号（７巻１１号）